

私は、グループセッションに参加して、印象に残った言葉がある。それは、「経験」である。

「何事も経験してみなさい」グループセッションで出会った講師の方々全員がおっしゃっていたことである。その理由としては、まず、経験しないと分からないということ。加えて、体験・経験をすることで勉強よりも深いことが体全体で感じる、理解できるからであるとおっしゃっていた。実際、講師の方の中で海外で活躍なさっている方の話の中で、貧しい国における日用品の商品の売り方の話があった。そのときの具体例は、歯磨き粉であったが、ある国の歯磨き粉は一回分の量が売られていて、人々はそれを買ってつかっているそうだ。日本のようにチューブに入っていて、衛生状態の良い中にあるのではないのである。私たちは、よくテレビなどで貧しい国々の生活の様子などを見るが、実際に生活を見ているわけではない。講師の先生は実際に見てほしいと言っていた。実際に見てみると、いかに日本という国が、豊かで安全であるかを体全体で感じるができるからと。そして、社会に出れば、また、世界で戦うことになれば、豊かな国で育った私たちと、貧しい国で育った育った彼らとが、同じ土俵で戦うのだとおっしゃっていた。これは、もともと地盤ができていて安心している私たちと、なんとかして生き残ってやろうというハングリー精神を持った彼らが戦うということに言い換えることができる。それを自覚した上で努力しなければ私たちは彼らに負けてしまうのである。そうならないためには、知ることが必要であり、その効果的な方法が体験というわけである。

他の講師の方でも、経験・体験の話があった。ある講師の方は元の仕事とは違うことをしたくて、全く知識のないまま、ある研究所の応募に返事したら、楽しくなって今の職業になっているそうだ。またカメラマンをなさっている講師の先生は、ある病気の患者さんを撮っている方で、実際に会ってみたら、つらいことがあっても、生きることにとっても前向きで、インタビューした講師の先生が逆に元気をもらうこともあるそうだ。

私のこれまでの生き方として、「石橋を叩き割って渡れなくなる」ようなことが何度もあった。リスクを背負って、失敗をすることや手間をかけることが嫌で、より安全で、無難で、楽な方を選んできたのである。しかし、今回の講師の方々の話を聞いて、自分のそのような冒険をしない生き方が、冒険の先にある可能性をつぶしてきてしまったように感じた。いつもいつも成功ばかりしているような道を選ぶのではなく、時にはなかなか体験できないようなことをやってみる。それが成功しようが、たとえ失敗してしまおうがどちらも自らの経験につながるのは必然なのである。百聞は一見に如かずということわざがあるように、机の上でただ勉強する、考える、人の話を聞いただけで終わるよりも自分の世界から飛び出してやる方が得ることははるかに多いのである。実際、私自身そういうことがあった。中学一年生のとき、ある習い事のイベントで長期間アメリカに行くことがあった。そこである外国人の男の子にだいたいこのようなことを聞かれたのである。「日本人はトイ

レをするとき、ウォシュレットを使うらしいけど、どうしてなの？」私は衝撃を受けた。ウォシュレットは全世界共通のものだと思っていたからである。今なら、治安のことなどいろいろ考えられるが、当時はそんなことは考えられず、分かんない、としかこたえられなかった。このように考えても考えつかないことや、歯磨き粉の例もあるように、当たり前と思っていても一歩飛び出せば当たり前でないことなんかたくさんあると思う。日本国内を見てさえも地域によって全く風土の違うところもある。それを一息に知る、理解することができるのが、体験する、ということであり、効果的、効率的というのもここにあるのだと思う。

考えればすぐ分かることだが、実際にそのように行動してきた講師の方々の話は、可能性を潰すような行動をしてきた私には、やはり自分で考えて気づくよりもはるかに大きく強く印象に残った。

これらのことをふまえると、私は、その気になれば毎日の行動をすべて経験にできるのではないだろうかと感じた。自分はこういうことに魅力を感じるのか、飽きを感じるのか、こんなことが理解できるんだ、知らなかったんだ、発見なんかいくらでも見つけられると思った。また、ある講師の方が言っていたように、いつもと違う道や時間を通ってみるといのは、それこそ発見や経験の連続なんだろうと思う。

そのように過ごせる日常の中で、今回のような特別な経験というのは、学校の先生方が言うように、本当に貴重なものなんだと改めて分かった。なぜなら、日本で活躍してる、しかも、世界でも活躍してるような方々の経験を100の内1だけでも知ることができ、さらには、その100の経験と同じぐらいの経験を得られる方法や、一歩の踏み出し方を教えていただけるからである。

それは、ディレクトフォースに限った事ではなく、例えば企業訪問や東京大学研修もそうである。私は今回残念ながら予定が合わず、企業訪問することができなかったけれども、企業訪問をするためにアポを取ったり、アポをとれたとしても、なかなか予定通りにいくことは難しかったりなど、学べたことは多かったと思う。東京大学研修でも日本で最も歴史があり、最高の頭脳が集まるところに行ったというのは、東京大学を目指すか否かに関わらず、これからの学校生活や勉強を大きく刺激していくと思った。そこで学んでいる先輩方の話を聞くことができたというのも、今後の仙台二高での生活や、先の話だが大学受験をする際に、大学に入ってから将来像や目標というのをより明確にしていくことに大きく役立っていくと思う。どれ一つ取っても大きく、また、なかなか経験しがたい貴重な時間であった。

最後に、私が今回出逢った方々に共通することとして、どこかゆとりがあって優しかった。これらも経験が豊富だから、いろいろなことにも慣れていて、さらに、たくさんの感情を察し、共感できるということもあると思う。しかし、何よりもそれらの経験を自分のものとしてきた素直さや、人に対するもともとやさしさを持っていて、そこからつながる接し方があるからだと思う。私はこれが、たくさんの人々の規範となり、慕われる人々の

すごさなのだと思います。そのような、優しいということも含めた人柄に直に触れられたというのはとても素晴らしい財産になると思う。

これらの出逢いを通した経験や学びがしっかりと自分の中で生きていくように、自分の可能性を広げていくような生き方をまずは模索していきたいと思う。まだ高校一年生なので、自分の中で何がしたいのか、何が目標なのか、そのためには、どのようなことが足りないのかをこれからの三年間でじっくりと考えていきたいと思う。このようなことを改めて考えなおすきっかけは落ちているようなものではないと思うので、今回の東大研修・企業訪問は私の中ではとてもいい形で終えることができたと思う。

このような経験をさせていただき、本当にありがとうございました。